



Kapschが従量制モデルを利用して データセンターをリフレッシュ

オーストリアの大手サービスプロバイダーが選んだ
HPE GreenLakeフレックスキャパシティ

業種

サービスプロバイダー

目標

データセンターストレージをリフレッシュする
柔軟性の高い方法を見つける

アプローチ

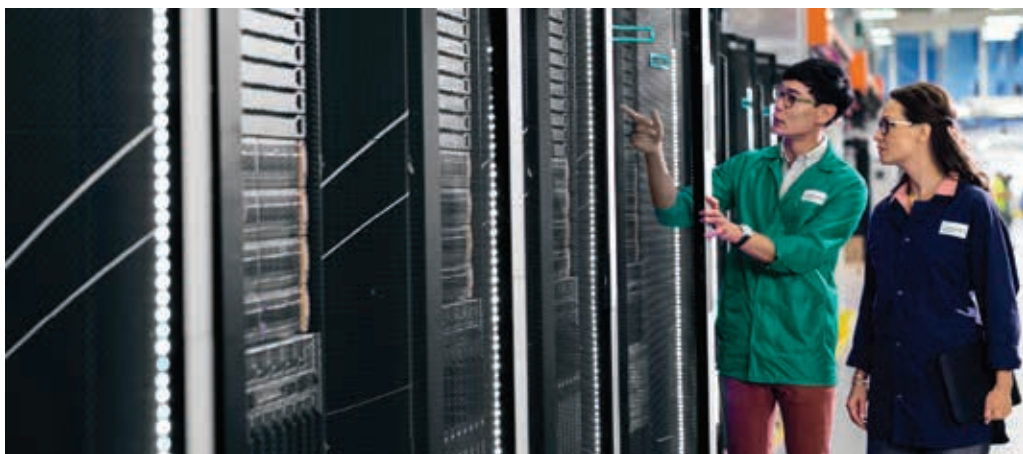
従量制のIT環境モデルを採用

ITの成果

- データセンターで最新のテクノロジーを常に活用
- 顧客は即時に処理能力の増強が可能
- データコストのコントロールを実現

ビジネスの成果

- 顧客要求に対する即時対応
- ベンダー数を減らして管理の複雑さを軽減
- ビジネス競争力を強化



オーストリアのITサービス
プロバイダーである
Kapsch BusinessComは、
自社データセンターの
ストレージを更新する際に、
顧客にメリットを提供できる
柔軟性の高い方法を採用
したいと考えていました。
そこでKapschは、
HPE GreenLakeフレックス
キャパシティの従量制課金
モデルを活用して、最新の
HPE 3PARソリューションを
導入することに決めました。

課題

ストレージリフレッシュの必要性

オーストリアのKapsch BusinessComはKapschグループの一員で、企業業績の一段の向上や新しいビジネスモデルの構築に向けた企業の取り組みをサポートしています。同社はデジタル化におけるリーディングパートナーとして、コンサルタント、システムサプライヤー、およびサービスプロバイダーなどの業務を展開しています。Kapsch BusinessComは、さまざまな業界の多様なユースケースの実装を通じて培ってきた豊富な経験と、大量データやセキュリティ問題に関する幅広いノウハウを有しており、変化の早いデジタルテクノロジーにすばやく対応できる最適なパートナーです。オーストリア、ルーマニア、およびDACH地域における同社の広範なポートフォリオには、インテリジェントでセキュアなICTインフラストラクチャのほか、スマートビルディングテクノロジー、メディア&セキュリティテクノロジー、およびアウトソーシングサービスなどのテクノロジーソリューションが含まれています。



「これは、HPEのようなプロバイダーと共同で将来的にゲームチェンジャーとなるであろうHPE GreenLakeフレックスキャパシティモデルに取り組むまたとない機会でした。」

– Kapsch BusinessCom、CIO、Günter Englert氏



Kapsch BusinessComは、Allianz、Erste Bank、ÖBB、OMV、ORF、Vodafoneなど、ローカルおよびグローバルの17,000を超える顧客にサービスを提供しています。Kapsch BusinessComは約1,200名の従業員を擁し、2017/2018年度の収益は約3億1,800万ユーロに達しています。

データは、同社の最も重要な資源です。その貴重なデータ資産は、オーストリアのカプフェンベルク山間部の地下深くにある古いトンネル網内に設置された、earthDATAsafe (eDs) 高可用性データセンターに保管されています。この「データ保管庫」は地下150メートルの深さに位置し、無数の岩石で囲まれた8つのセキュリティゾーンに分かれ、緊密に統合されたビデオ監視とアクセス制御によって管理されています。

このデータセンターのすべてのシステムには最新のセキュリティ技術が搭載されており、データストレージ、プロセッサの冷却システム、電源装置を含めて完全な冗長構成になっています。

ただし、一部のレガシー機器はサポート終了が近づいており、Kapschが顧客に提供しているITアウトソーシングをサポートするのに適さなくなっていました。同社は、自社のマルチベンダーストレージ環境の一部をリフレッシュし、カプフェンベルクとウィーンにある既存のデータセンター間でのワークロードの移動を管理するために、ウィーンでの新規データセンターの構築をサポートするのに必要な柔軟性を確保したいと考えていました。

KapschのCIOであるGünter Englert氏とそのチームは、eDsの全体的なモダナイズを含む将来に向けたITコンセプトの検討に着手しました。新しいストレージコンポーネントは、顧客に対する既存のサービスの提供に加え、将来展開する新しいサービスや製品の基盤となる必要がありました。

Kapschは、質の高いサポートが利用でき、長期的なビジネスパートナーおよび顧客として信頼できる企業を探していました。そこで、ヒューレット・パカード エンタープライズが提供している、将来性を考慮した柔軟性の高いソリューションを導入することにしました。





ソリューション

従量制のIT環境モデル

Kapschは、フラッシュ向けに最適化された強力な冗長構成のペタバイトスケールに対応した**HPE 3PAR StoreServストレージシステム**を選択しました。これには、2つのHPE 3PAR StoreServ 8200 2ノードシステムと2つのHPE 3PAR StoreServ 8400 4ノードシステム、およびSAP HANA® 16GBスイッチブロックが含まれています。この設備はカプフェンベルクとウィーンのデータセンターに設置され、HPE PointnextがIT運用サービスであるHPEファウンデーションケアと**HPEデータセンターケア**を提供する予定です。これにより、システムを信頼性が高く安定した最高性能の状態で作働させることが可能になります。

「自社のビジネスを将来に適合させるには、ビジネスニーズや市場のニーズにすばやく簡単に対応できるITシステムが必要です。HPEのITシステムは、まさにそれを実現するものです」と、Englert氏は述べています。

Kapschにとって重要な柔軟性を実現しているのは、**HPE GreenLakeフレックスキャパシティ**です。これは、**HPE Pointnext**の従量制のIT環境モデルで、実際の使用量に合わせて料金を支払うことができます。このサービスを利用すると、オンプレミスのITで使用した容量分だけを支払うことができるため、初期投資のリスクを回避できます。サービスとして料金が請求されるため、Kapschのキャッシュフローおよび資本配分戦略の助けとなり、コストを明確に把握するのにも役立ちます。

「これは、HPEのようなプロバイダーと共同で将来的にゲームチェンジャーとなるであろうモデルに取り組む、つまり私たちの固有の要件を取り込み、私たちの顧客向けのモデルを実現するまたとない機会でした。これまで長くやってきましたが、これは私がこれまでに経験したことのないものでした」と、Englert氏は述べています。

Kapschは、柔軟なIT使用モデルに基づいた従量制のサービスをオーストリアで最初に提供したプロバイダーの1つです。技術的にも経済的にも、すべてが完璧に機能しています。特に、HPE GreenLakeフレックスキャパシティには、サービスの一環としてハードウェアコンポーネントの自動アップグレードが含まれています。このため、eDsのストレージコンポーネントはHPEのテクノロジーアップデートを受けることができ、Kapschの顧客は対応するサービスで最新のシステムを利用することができます。

「HPE GreenLakeフレックスキャパシティは、クラウドサービスの優れた運用効率や柔軟性に、社内データセンターソリューションの優れた制御とセキュリティを融合したITモデルを求めるお客様の要望に応えたもので、投資利益率は純粋なクラウドベースのソリューションに引けを取らないものになっています」と、HPE Pointnext DACH & RussiaのセールスマネージャーであるGerald Perchthalerは述べています。



「将来のIT分野で重要になるのは、インフラストラクチャではなく、ビジネスの成果です。HPE GreenLakeフレックスキャパシティを利用することで、私たちは既にこの状況に対応しています。」

– Kapsch BusinessCom、CIO、Günter Englert氏

お客様導入製品/ サービス

ハードウェア

- HPE 3PAR StoreServ 8200
- HPE 3PAR StoreServ 8400

HPE Pointnextサービス

- HPE GreenLakeフレックスキャパシティ
- HPEデータセンターケア
- HPEファウンデーションケア

メリット

処理能力に即座にアクセス

HPE GreenLakeフレックスキャパシティサービスにより、Kapschはストレージ環境を顧客の要求に即時に対応できる最良のインフラストラクチャにリフレッシュすることが可能になりました。このサービスでは、インフラストラクチャを常に最新の状態に維持することもできます。このHPEソリューションでは、企業が自社のデータセンター間でワークロードを移動することができるため、近い将来に予定している新規サイトの立ち上げをサポートしたり、立ち上げを簡素化したりすることができます。

HPEは既にデータセンターでソリューションを提供している3つのベンダーの1つでしたが、この取り組みを通じて、他のベンダーの1つがHPEに置き換えられ、3つのベンダーが2つに削減されました。これにより、複雑さが緩和され、管理が簡素化されました。

このコンセプトは、Kapsch BusinessComの顧客にも大きな恩恵をもたらしています。使用可能容量の50%しか使われていない、複数個所に分散したオーバーサイズのデータセンターは過去のものです。

顧客は必要なときにいつでもマウスをクリックするだけで、数週間ではなく数分でKapschの処理能力にアクセスできるようになります。これらはすべて、データとコストを完全に管理した状態で行われます。

Englert氏は、Kapschの将来に適合するIT環境について次のように述べています。「将来のIT分野で重要になるのは、インフラストラクチャではなく、ビジネスの成果です。HPE GreenLakeフレックスキャパシティを利用することで、私たちは既にこの状況に対応しています。私たちは2年前にHPEと協力して作業を開始し、earthDATAsafeでの当社顧客向け容量管理に新機軸を打ち出しました。この取り組みは成果を挙げ、活況を呈するIT分野で活動する当社の顧客に対して優れた環境を提供できています。」

詳細情報

<https://www.hpe.com/jp/ja/services/flexible-capacity.html>

メールニュース配信登録